

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日米の高校野球
Author(s)	デービッド ヤマモト,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 15期 : 93 - 98
Issue Date	2001-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038908
Right	
Relation	



日米の高校野球

デービッド・ヤマモト

私は今までアメリカからアメリカ人として日本を見て来ました。私は自分の目で小さいころから日本を見て一番不思議に思った事は日本の文化です。それは、私の両親は二人とも日系人なので、私は普通のアメリカ人とは少し違い日本の文化とアメリカの文化を一緒に見て、感じ育ってきました。一番初めに文化の違いを感じたのは幼稚園に通っていた時、たまに幼稚園でお昼のランチでお箸を使ったほうが良いおかずの時に、お箸を使わない、あるいはお箸が無いのに、どうして家にはフォークとナイフそれとお箸の両方あるのだろうかと思った事です。私に取っては、家にある物が外には無いと言う、姿、形、以外の違いに初めて気づき、それがまだ、文化、習慣と言う言葉も知らない私には不思議な不思議な出来事の始まりだったのです。このように私は少しずつ、色々な文化の違いを感じながら育って行きました。私はなぜか小さいころからアメリカと違う日本の文化にすごく興味を持って、またそれをどんどんふくらませていったのです。私は現在二十歳で、今では日本とアメリカの文化の違いを小さいころよりは理解できていると思っています。でも中には今でもすごく不思議に思い、興味が溢れるほどある事があります。それは日本とアメリカの高校野球の文化の違いなのです。

私はアメリカで高校生活時代四年間、ずっと野球部に入って野球をしていました。私は野球を愛し今の自分は、高校生活時代の野球なしでは無かったらと思うています。自分は選手としてアメリカの高校野球の文化はすべて体験あるいは経験出来たと思っています。アメリカで高校生活四年間のあいだ、私は高校三年生の時、高校野球のアメリカ代表に選ばれた事もありました。

私がかたしか8歳か9歳のころ、たまたま私の父が日本へ出張で行った時に、持ち帰ったビデオに甲子園大会の野球が映っていた事をきっかけに日本の高校野球を初めて見たのです。同時にその時から日本の高校野球に興味を持ち始め、そのビデオを初めて見た時、私の頭の中で不思議に感じたり、思った事が色々ありました。まず一番初めに、なぜ負けたチームの選手は土を持って帰るのだろうかと感じました。それから負けたチームの選手が泣いている事が異常に不思議に思えた事です。僕はこのビデオを初めて見た時には、自分も、もうリトルリーグでプレイしていて野球に興味があったので、もちろんアメリカのプロ野球もテレビで見る事は多かったのですが、選手が泣くと言う事はそれまで見た事が無かった事なのでとても不思議でショックでした。最後に不思議と思った事は、甲子園大会での野球の選手達、全員頭を丸坊主にしている事でした。このように色々アメリカと違う野球文化を感じ始めて行きました。

不思議に思った事はたくさんありましたが、日本の高校野球にすばらしいと思う事も多くありました。初めて甲子園大会での野球のビデオを見た時、何よりも美しいチームプレイが強く印象に残りました。それまで私が見た野球とは自分中心の個人プレイでした。もちろんアメリカの野球全部が個人プレイでは無いが日本に比べるとずいぶん個人プレイの野球が多いと思われます。

それまでの私はホームランがすべてのように、ホームランを打つ事にしか憧れを持っていませんでした。でも私はこの日本の高校野球のビデオを見て初めて多くの送りバントやスクイズプレイを見たのです。一瞬、送りバントやスクイズプレイなんてたいした事では無いように見えるが、チームのために自分を捨ててまでチームを勝利に導かせるためにとるこの行動に、反対に大きな魅力を感じました。こうやって私は同じ野球でも文化が違うと内容まで変わる事を知って行ったのです。

まず日本とアメリカの高校野球の違いは考え方の違いから始ります。私の経験からして、アメリカの高校野球選手の目標はただ勝つ事です。その次にある目標が州で毎年ある州の大会に出て優勝して州で一番になる事です。アメリカには全国大会が無いためこれが選手として一番大きい大会なのですが、日本の甲子園大会のように夢の大会のイメージが無いため、アメリカの高校野球選手の心の中で、一番優先の目標とは言えないです。アメリカの高校野球選手はどうしてもプロ野球選手になる目標を優先してしまうので、そこから個人意識が生まれチームプレイと違う個人プレイが多いのであろうと思う。もちろんアメリカの高校野球選手はみんなプロ選手になる事を目標としているわけでは無く、中には補欠である選手もいるので、そういう選手の目標はやはりスター選手やレギュラー選手と目標は違う事もあるが、一般的には少しでもスカウトに良く見てもらおう、また少しでも強い大学に進学しよう考えるのです。それに対し日本の高校野球選手は、だれに聞いてもみんな目標は県大会に優勝し県の代表として甲子園大会に出場する事と言う。私は研究の中である日本の高校の野球チームの選手全員に目標は何かと聞いた所、全員が甲子園大会出場と答えた。もちろん話を良くして見たら、プロになるのを夢見ていると言う選手も少しはいたがごく少数で、全員が甲子園大会に出場する事を中心とし目標として野球をしていると言った。こうしてチームが一つになって一つの目標に向かって三年間、頑張ると言う事にすごく感動した。アメリカの選手側から考えるとある意味で、一つの大会のためによく三年間を取り組めるなと思う。でも違った意味でそこに感動する所もある。簡単に言うと日本とアメリカの高校野球選手の夢が違う事です。日本の選手はもちろん甲子園大会に出場する事が夢でアメリカの選手はそのような全米大会が無いためどうしてもプロ野球選手になる事を夢にしています。

次にアメリカとの違いに気づいた事は野球部の形です。日本の高校のチームの場合、野球部は一つで一年生も二年生も三年生も全員みんな一緒に練習し、一つとして行動する。それに対し、アメリカの高校の場合は、野球部は三つに分かれています。一軍から三軍ま

で分かれていて、まず三軍は一年生と二年生の選手でできています。そして三軍は二年生以上の選手も調子が悪ければ入る事を禁じられていません。また一軍と二軍は年齢の制限はありません。うまくれば一年生でも一軍でプレイする事もあります。多くの場合、二年生以上になって二軍にあがられなければ野球部からくびになります。プロ野球のシステムとよく似ています。アメリカの高校ではまず三つに野球部は分かれていて、練習も一緒にする事はありません。練習はそれぞれ別な場所です。ですから二つの高校が試合する時には全チームが試合をするので三試合あります。その点、日本の高校は通常一試合しかありません。そして日本では野球部は一つの団体として行動します。

日本の高校野球で私が一番良い事だと思う事があります。それは多くの日本の高校の野球部はだれでも入部出来る事です。もちろん日本の高校でも少数ですが中には、智弁和歌山高校のように毎年野球部に入部する選手の人数が決まっている学校もありましたが、通常どこの高校でも本人の希望で入部できるようです。

それに比べアメリカの場合、ほとんどの高校で入部テストがあり、チームに入部出来る人数が決まっています。私の高校はだいたい毎年二百人の生徒が入部テストをうけて、合格するのは十五人ぐらいです。したがってアメリカでは経験の無い学生が高校から野球を始めると言うのはとても無理な事なのです。私は野球をしたくてもできない人を多く見てきたので、これに関してはいつもすごく残念な気持ちを持っていました。だから私はこの日本の高校のようにアメリカも誰でも入れるようになってくれればと思っています。野球をする事によってただ野球を学ぶのでは無く、色々と人生に役立つ事を学べると思うのでぜひアメリカでも誰でも野球が高校で出来るようになる日を望んでいます。

バントと言うのはボールをバットで少しあて、ランナーを次のベースへ進めると言うだけな役割です。日本の高校野球を見ていると選手は素直に監督の指示にしたがいきちんと役割を果たすような気がします。アメリカの選手は日本の選手に比べると異常に自分勝手なので、バントの指示が出てもしたがわず、わざとバントをはずしたりする選手もいるのです。私は思うにはバントに対する考え方がアメリカの選手と日本の選手に違いがあると思います。もちろんバントと言う役割を果たしても目立つと言う事はあまり無い事で、アメリカの選手はやはりどのようなにして、少しでも自分をより目立つようにしながら自分も生かすかがアメリカの選手の考え方なので、あまりバントと言う役割に良い考えを持っていないのです。その点、日本の選手はいやがらずきちんとバントと言う役割をきちんと果たすので、ある意味で野球へのまたチームへの情熱、熱意がすごく感じられる。

次の考え方の違いはすごく不思議にずっと思っていた事です。日本の甲子園大会を見た時に気づいた事で、非常に心配な事です。それは甲子園大会の時、多くの高校チームはエースピッチャーが大会全部の試合を投げると言う事です。アメリカではいくらトーナメント式の大会になっても少なくとも二人の先発ピッチャーを使って毎試合変えます。二人のピッチャーを使うチームでも少ないほうです。ほとんどの高校は三人以上の先発ピッチャ

ーを使いそれにリリーフピッチャーも使います。ピッチャーと言う役割はボールを投げる役でとても大変な役割です。試合の中でも守備の時は一番重要な守備位置と言ってもおかしく無い所です。なおかつピッチャーと言う役割の選手は、肩への負担や体力の消耗、またよくけがをするので、アメリカではすごくピッチャーに関しては監督やコーチが気を使い、最も注意しているポジションです。だからどんな状況でも甲子園大会のように三日連続投げるような事はないのです。通常、各チーム、大会、リーグで一週間での投球数がインニング数が制限されているので、アメリカでは考えられ無い事なのです。それにアメリカの監督やコーチの考えでは、あるピッチャーがもし試合に先発で投げると、せめて三日は開けないと決まっていれば結果は出ないと思っている事もあって、一人のピッチャーを毎日使わないのかも知れません。私も自分自身がピッチャーと言うポジションでプレイをしていたので、すごく日本のピッチャーが連投しているのを見ると心配な気持ちでいっぱいです。ですからピッチャーを使う事にかんしての監督やコーチの考え方に大きく違いがあらわれていると思います。

私は今年の6月に、日米親善高校野球大会のアメリカ選抜チームの通訳とピッチャー達へのアドバイザーとして一緒に日本の長野、群馬、栃木、新潟、東京とまわる遠征に同行する事が出来ました。その大会遠征中、色々な日米の高校野球の違いを自分で経験する事ができました。まず私は日本の高校生達に日本とアメリカの野球の違いを感じますかと聞いた所、多くの日本の選手が言った事はアメリカの選手はみんな必要以上の役割を果たそうとする事です。だから打者で言うと、みんながホームランを狙う事と、ピッチャーで言うと全部三振を取ろうとする事です。その他に日本人の選手が感じた事はアメリカの選手はいつも自信があるように感じるという事です。でもさすがに日本の選手もアメリカの選手の力と大きさに全員驚いていました。

反対にアメリカの選手に日本のチームと試合をして、野球の違いを感じるかと聞いた所、まず答えた事はみんな日本の選手は頭を丸くそっているという事だ。アメリカにはこのように頭をそらないといけないという事は無いのですごく不思議にアメリカの選手は感じていた。その次にアメリカの選手に頭をそらないといけないという習慣に関してはどう思うと聞くと半分ぐらいの選手達はべつに良いと思うと答えた。野球に集中するために頭をそると言うのはけしておかしくないとその選手たちは答えた。あとの半分のアメリカの選手達はもしチームが全員一緒になってやろうと言う事であれば別にいいけど、絶対に野球部部員として、しないといけないという事に関しては大変な反対意見が多かった。私もどちらかと言うと無理にやらないといけないという事に関しては反対です。この習慣がいつ頃からまたどこから始まったのか不思議な事の一つです。私は髪型で個人の個性をあらわしても良いと思います。

アメリカ人の選手達が、他に違いを感じた事は日本の高校野球の応援です。アメリカの高校野球では試合を見に来る人はいるものの、応援団やバンドが参加してチームを応援し

てくれると言う事は無いので日本には野球の試合に応援団があると言う事に選手全員びっくりしていた。でもアメリカのフットボールの試合の応援に似てるるので、全員フットボールの試合を思い出すとっていた。でもバンドと別の応援団の人達にはアメリカ人選手はみんな関心を示し、試合中ずっと熱い中、応援する事に全員感心していた。私は甲子園大会を見て応援団の中でも試合中ずっと旗を持ち上げている応援団の人に一番感心します。私は実際、甲子園に足を運び見てきたのですがあの熱さの天気の中で旗を一試合ずっと持ち上げていると言う事は私にとって信じられない事です。アメリカはあくまで個人の能力をのばそうとし、日本はチームのため、学校の名誉、あるいは県民の代表としての意識があるので、そうした野球部以外の人達とも一つになれるのだらうと強く感じられました。

またこの日米親善試合でアメリカチーム全員にとって信じられない事が起こったのです。それは日本での五試合の中の第一戦でおきたのです。アメリカチームの大量リードでほとんど試合を決め勝利を確信していました。試合の途中ある時には10点も点差を開いて勝っていたのです。しかし、この試合の結果は日本のチームが最後まで粘り強く頑張って同点引き分けで試合は終了しました。野球と言うスポーツはこのような点差が開くと集中力がなくなり、多くの選手やチームは勝利をあきらめてしまいます。この試合後、私はアメリカ人チームに日本人チームに関してどう思うと聞いたら、ほとんどの選手達は日本人チームにはあきらめと言う事が無いと知ったと言いました。はっきり言って、私も日本人チームの粘り強い頑張りになぞり関心してびっくりしました。アメリカの高校野球にはこのような事は絶対に無いとは言えないけれど決してあまり見れるものではないので、私も含め監督、コーチ、アメリカ人チームは全員で、すごくショックをうけた。何と言ってもアメリカチームが一番おどろいた違いは、日本の高校生野球チームの集中力と野球への強い情熱とどんな事でもあきらめない熱意です。

次に小さな事ですが、日本の高校野球では選手が自分の好きな背番号を付ける事はできません。日本では選手の守備位置によって背番号が決まります。私はこれを今回アメリカチームと同行をして初めてしりました。アメリカの高校野球では選手が自分で望んだ背番号をつけると言う事が普通です。やはりアメリカの文化は個人性を大切にすることもあって背番号の決まりは無いと思います。それと、やはりアメリカと言う国は自由の国なのもあるかもしれません。私の個人的な意見ですが、高校野球とは、やはり人生の中で日本では三年間そしてアメリカでは四年間しか出来ない限られた期間の事なので背番号は自分の好きな番号を付けられる方が良いと思います。アメリカの選手は背番号に関してはすごくこだわる事なので決まった番号を付けると言う事は考えられない事です。アメリカでは選手それぞれ憧れる選手がいるのでその憧れの選手の背番号を付けたがります。中には人気の無い番号を付けて自分でその番号の存在を大きくしようとする選手もいるのです。とにかく本人の意志ではなく決められた背番号を付けて日本の高校生がプレイしていると言う事

に關してもびっくりしました。

最後に最も日本とアメリカの高校野球で違ふと思つたのはクラブ活動の中での先輩、後輩の上下關係です。もちろん日本では野球だけでは無く毎日の生活の中で、他の場面でも良くある事です。アメリカの高校ではほとんど上下關係と言つた習慣はありません。まったく無いとは言えませんが一年生が道具を運ばなければいけないくらいです。立場としては野球の成績が上の人間が上です。たとえば、もし5勝している四年生のピッチャーと7勝している一年生のピッチャーがいるとしたら、一年生の選手の方が立場は全然上です。私は日本の野球部で野球をした事が無いのでこの件に關してはどっちの方が良いか分かりません。おもしろい事に、私の経験ではアメリカで高校二年生の時には一番良い時だったので多くの先輩より立場が上でしたが、高校四年生の時にはけがであまりプレイしてなかつたために多くの後輩の方が立場は上でした。ですから以外な経験もしました。

日米の高校野球の違いには本当に不思議な事が沢山あります。中でも日本の甲子園大会などは日本にしか無い大会だと思ひます。私が最も不思議に思つた事は同じ野球と言え、国と文化によつてこんなに違いがあると言ふ事です。私は同じ野球の中で、こんなにも中身が違ふとは夢にも思つて無かつたのです。また、中でも日本の甲子園大会などは日本にしか無い大会だと思ひます。私が一番日本の高校野球で良い事だと思ひ興味深く感じるのが、普段はあまり野球に關心を示さない人でも、日本中の人々が甲子園大会の時期になると熱く盛り上がる事です。甲子園大会のような盛り上がりはアメリカの高校野球には決して無い事です。その点は日本の高校生がうらやましいです。私は日本にもアメリカにも両方、良い面が沢山あるので、今後も文化、風習、言語は異なりますがその違いを乗り越え同じ野球と言ふスポーツを通じてお互いが良い事を見習つて、野球だけでは無く全ての面において、これからも交流を進めて行つて欲しいと願つています。